

## <プロフェッショナル育成コース>



## ガイダンス

## 社会の問題解決を目指す、多様な主体との協働を実現し、 効果的なインセンティブ設計のできる 高度なマネジメント能力をもった人材（=社会イノベータ）の育成

様々な場面において、**行政にも企業にも対処が難しい社会課題が顕在化**し、人間のwell beingを向上させる、持続可能であり、**実効性の高い社会システムの設計や実践モデルの構築**が喫緊の課題となっています。

しかし、このような社会課題の解決には「**個益（=個人や特定の組織の利益）**」と「**公益**」が相反するものと捉えるアプローチでは隘路にはまってしまう。

そこで、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科では、社会イノベータを「**事業センスと公益センスを兼ね備え、持続性のある、かつ、生産性の高い社会を実現する人**」と定義し、多様な主体との協働を実現し、効果的なインセンティブ設計のできる高度なマネジメント能力をもった人材を育成する**プロフェッショナル育成コース**として「社会イノベータコース」を設置しています。

# 社会イノベータコース（SIコース）7つの特色

1

ビジネス・環境・社会起業を融合する知識・技能の学習とプロジェクト実践の体系的なカリキュラム

2

研究プロジェクト実践によるアントレプレナーシップの醸成

3

「修士（政策・メディア）」の学位に加えて、サティフィケート「社会イノベータ（Social Innovator）」を授与

4

コース指定の必修・選択必修科目（9科目）は1年間で履修が可能  
※ 政策・メディア研究科は、基本的には2年間の在学期間が必要です。

5

「都心サテライト教室」と全国の「SFCサテライト拠点（地域おこし研究員の活動拠点）」を中心とした学習も可能  
※ コース指定の必修科目・選択必修科目（一部）のみが対象です。

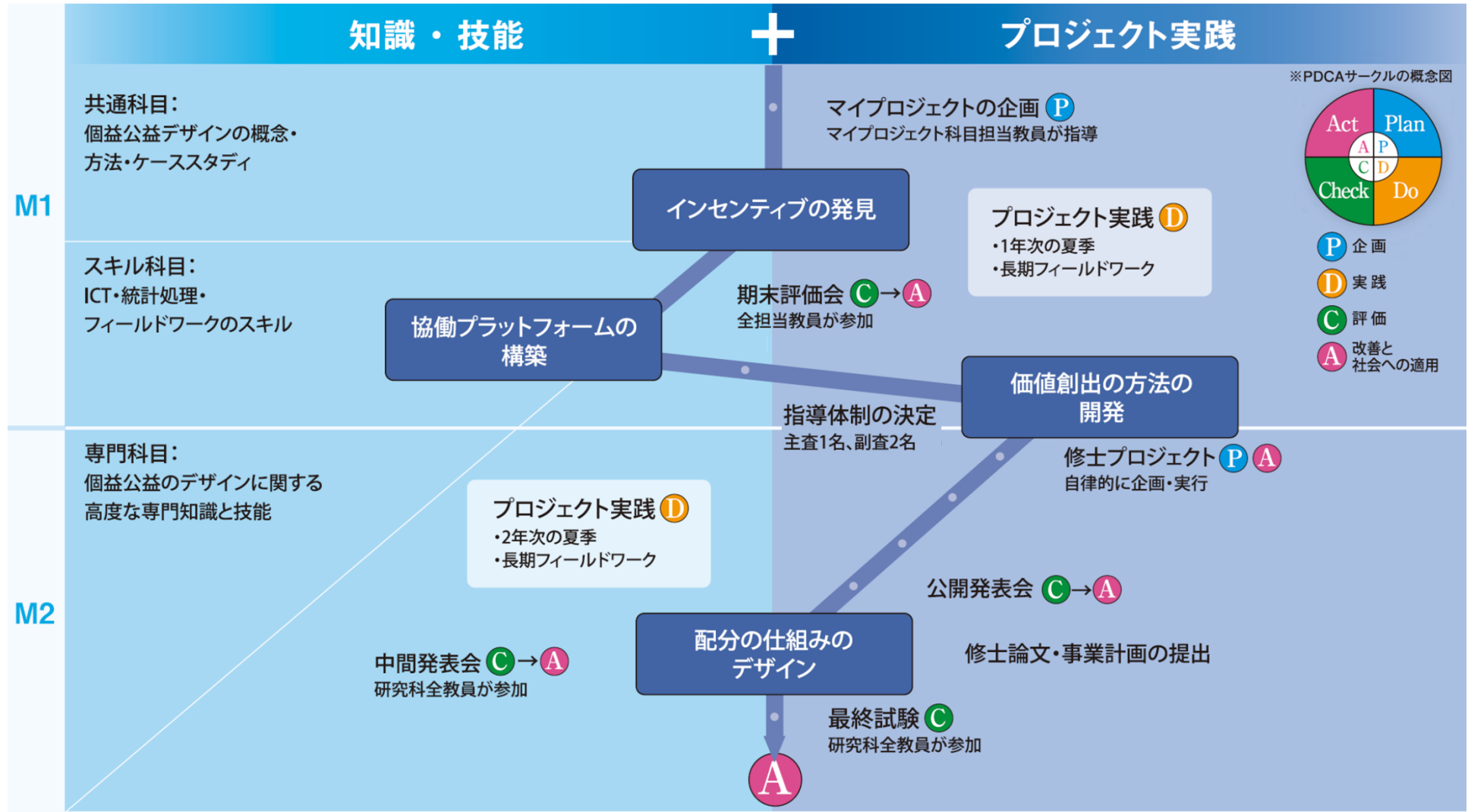
6

総合政策学部・環境情報学部設置されたビジネス・環境・社会起業などに関する科目を履修可能  
※ 学部設置科目は自由科目としての履修となり、大学院の修了単位としてのカウントは出来ません。

7

休校期間中の海外や国内でのフィールド研究を推奨・支援

# SIコースの学習モデル



<各学期のポイント>

## 1学期目 「個益公益のインセンティブの発見」

### 【Plan】

#### ① 実践活動

“マイプロジェクト” へのアプローチ

- 気になるテーマ、不動点の認識
- これから深めるべき領域の確認
- 個人の学習計画にも繋げる
- プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言

#### ② コースワーク（概念構築、基盤構築）

（春学期入学者）

個益公益のデザイン1・2、社会起業とイノベーション  
ソーシャルファイナンス  
ソーシャルマーケティング、パブリックマネジメント

（秋学期入学者）

社会イノベーションとデザイン  
ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション  
社会起業論

## 休校期間（夏期・春期）「プロジェクト実践」

### 【Do】 フィールドワーク

- ・前学期に企画を立てる
- ・それぞれが集中して行うべきことを：実地、調査活動、資料収集…
- ・マイプロジェクトを育て続ける
- ・「フィールドワークA/B/C/D(各2単位)」に登録  
(希望者&承認された場合)

大学指定の申請期間までに、指導教員を依頼したい教員にアポを取って、指導を受けておく

---

## 2学期目「個益公益の協働プラットフォームのデザイン」

### 【Check→Action→Plan】

#### ① コースワーク（実践、演習）

（春学期入学者）社会イノベーションとデザイン

ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション、社会起業論

（秋学期入学者）個益公益のデザイン1・2

社会起業とイノベーション、ソーシャルファイナンス

ソーシャルマーケティング、パブリックマネジメント

#### ② マイプロジェクトをバージョンアップし続ける

- ・プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言

#### ③ 指導体制の決定：主査1名・副査2名

## 3学期目 「協働による価値創出の方法の開発と実践」

【P→D→C→A】

- ① 修士プロジェクトの推進
    - 修士研究を自律的に実施
    - プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言
  - ② 中間発表会（研究科全体としてのチェック）
- 

## 4学期目 「個益公益の評価と配分の仕組みのデザイン」

【C→A】

- ① 修士プロジェクトの体系化
  - プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言
- ② 修士論文・修士活動報告の提出
- ③ 最終試験

# 「社会イノベータコース」の履修

- サータィフィケート修得条件（⇒大学院ガイド該当ページ参照）

「SI コース科目区分」のうち、  
「共通科目」と「スキル科目」から14 単位以上、  
「プロジェクト科目」から4単位以上\*1、  
「研究指導科目」から4単位以上\*2、  
「修士プロジェクト」2単位を取得し、  
修士（政策・メディア）※を取得すること。

\*1 指定のアカデミックプロジェクトから毎学期選択して履修

\*2 SIコース担当者が開講する「修士研究会」のみを対象

※ 学位取得の条件（例：30単位以上など）は満たすこと

- SIコースの履修モデル（⇒次頁以降参照）
- 研究メンター活動
  - オフィスアワー制度の活用：主体的な相談を
  - プロジェクト科目&修士研究会への参加

# 社会イノベータ（SI）コース関連科目

## ■ 必修（共通科目&スキル科目）

【春・前半】 **個益公益のデザイン1** (水6・7限)

【春・後半】 **個益公益のデザイン2** (水6・7限)

※ SIコースの根幹となるフレームワークの学習とトレーニング。1は概念構築編、2は実践編

【春・前半】 **社会起業とイノベーション** (火6・7限)

【春・後半】 **ソーシャルファイナンス** (火6・7限)

【秋・前半】 **社会イノベーションとデザイン** (火6・7限)

## ■ 選択必修（共通科目&スキル科目）

【春・前半】 **ソーシャルマーケティング** (月1・2限) ※大学院・学部併設科目

【春・前半】 **パブリックマネジメント** (月3・4限) ※大学院・学部併設科目

【秋・前半】 **社会起業論** (金2・3限) ※大学院・学部併設科目

【秋・後半】 **ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション** (火6・7限)

【休校期間(夏・春)】 **フィールドワークA/B/C/D** ※ 6月・11月申請→承認→休校期間に実施→翌学期に履修申告

※ **概念構築（リサーチデザイン）** (開講せず)

## ■ 毎学期 選択必修（プロジェクト科目）

【毎学期】 **ネットワークコミュニティ1/2** (木5限~)

【毎学期】 **プラットフォームとイノベーション** (月1・2限)

## ■ 毎学期 必修（研究指導科目）

【毎学期】 **修士研究会** ※ SIコース担当教員による開講のみ

## ■ 選択必修（修士プロジェクト）

【2年春】 **修士論文1 or 修士活動報告1**

【2年秋】 **修士論文2 or 修士活動報告2**

## 社会イノベータコースの履修モデル（例）

		共通科目/スキル科目 【必修】10単位 ＜合計14単位以上（必修+選択必修）＞	共通科目/スキル科目 【選択必修】4単位以上	プロジェクト科目 【每学期 選択必修】4単位以上 研究指導科目 【每学期 必修】4単位以上	修士 プロジェクト 【選択必修】 2単位	知識科目/ 専門科目 【推奨】	取得 単位数
1 年 春	前半	個益公益のデザイン1 (2) 社会起業とイノベーション(2)	ソーシャルマーケティング(2) パブリックマネジメント(2)	ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) 修士研究会(2)		◆知識科目 経営戦略特論(2) ベンチャー経営論(2) ソーシャルビジネスと評価(2) 低炭素社会設計論(2) 先端研究(ケースメソッド)(2)	8 (+4) +1~2 +2 +α
	後半	個益公益のデザイン2 (2) ソーシャルファイナンス(2)		プラットフォームとイノベーション(1) 修士研究会(2) @SFC			
1 年 秋	前半	社会イノベーションとデザイン(2)	社会起業論(2)	ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) 修士研究会(2)		◆専門科目 地域情報化論(2) ファミリービジネス論(2) ポリシーマネジメント(政策形成とソーシャルイノベーション)(2) 環境ビジネスデザイン論(2) 環境フィールドワーク(2) 行政組織の経営(2) など	2 (+4) +1~2 +2 +α
	後半		ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション(2)	プラットフォームとイノベーション(1) 修士研究会(2)			
2 年 春				ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) 修士研究会(2) プラットフォームとイノベーション(1) 修士研究会(2)	修士論文1(1) 修士活動報告1(1)		1~2 +2 +1 +α
2 年 秋				ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) 修士研究会(2) プラットフォームとイノベーション(1) 修士研究会(2)	修士論文2(1) 修士活動報告2(1)		1~2 +2 +1 +α
休 校 期 間 (夏 休 み 春 休 み)			フィールドワークA/B/C/D(各2)				+α

1年時の時間割（例）

1年生 春学期・前半

	月	火	水	木	金
1	【選択必修】 ソーシャル マーケティング				
2	【毎学期 選択必修】 プラットフォームと イノベーション 【毎学期 必修】 修士研究会				
3	【選択必修】				
4	パブリックマネジメント				
5					
6				【毎学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2	
7		【必修】 社会起業と イノベーション	【必修】 個益公益のデザイン1	【毎学期 必修】 修士研究会	

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修

1年時の時間割（例）

1年生 春学期・後半

	月	火	水	木	金
1	【毎学期 選択必修】 プラットフォームと イノベーション				
2					
3					
4					
5				【毎学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2 【毎学期 必修】 修士研究会	
6		【必修】 ソーシャル ファイナンス	【必修】 個益公益のデザイン2		
7					

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修

1年時の時間割（例）

1年生 秋学期・前半

	月	火	水	木	金
1	【每学期 選択必修】 プラットフォームと イノベーション 【每学期 必修】 修士研究会				
2					【選択必修】 社会起業論
3					
4					
5				【每学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2 【每学期 必修】 修士研究会	
6	【必修】 社会イノベーションとデザイン				
7					

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修

1年時の時間割（例）

1年生 秋学期・後半

	月	火	水	木	金
1	【每学期 選択必修】 プラットフォームと イノベーション				
2					
3					
4					
5				【每学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2 【每学期 必修】 修士研究会	
6	【選択必修】 ソーシャルビジネス の商品開発と プロモーション				
7					

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修

## （参考）「地域おこし研究員」について

「地域おこし研究員」は、全国各地の地域とSFC（社会イノベータコース、社会イノベーション・ラボ）が連携して推進するプログラムです。

地域の現場での実践的な研究開発を行うSFCの大学院生や大学院進学希望者等を、SFCと連携する自治体・組織が「地域おこし研究員」として任用します。SFCからの遠隔と対面での研究指導・支援を通じて地方創生の実学を推進します。現地に居住して徹底的に研究開発ができます。

「地域おこし研究員」は、SFCの担当教員からの助言や、自治体・組織との調整のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動します。地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。

### 「地域おこし研究員」7つのポイント

1

全国の自治体・組織にて、報償費等が支払われる立場で任用されます

2

大学院入学と同時に「地域おこし研究員」として活動することが可能です

3

地域における実践的な研究活動に従事することが可能です

4

SFC「社会イノベータコース」にて、指導・支援を受けながら活動することが可能です

5

SFC宿泊施設や各地の拠点等で、全国で活動する研究員が集まる定期ミーティングを開催します

6

遠隔ミーティングで、地域にいながら指導・支援を受けることが可能です

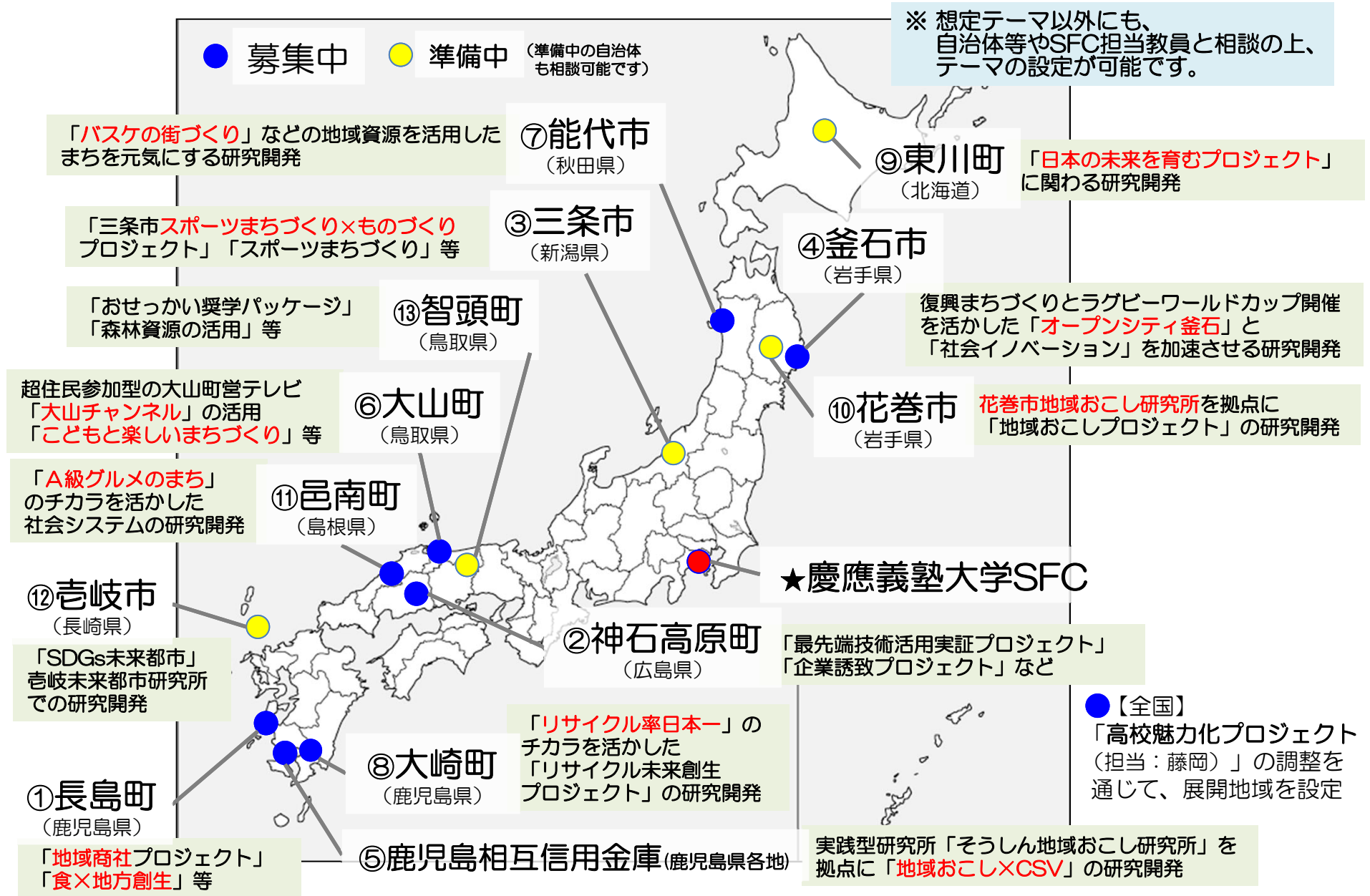
7

「慶應義塾大学SFC サテライト拠点」を連携地域に設置します

- 慶應SFC、長島町（鹿児島県）神石高原町（広島県）三条市（新潟県）釜石市（岩手県）鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）大山町（鳥取県）能代市（秋田県）大崎町（鹿児島県）東川町（北海道）花巻市（岩手県）邑南町（島根県）壱岐市（長崎県）智頭町（鳥取県）などが共同で提唱・推進。
  - 慶應SFCと連携する自治体・組織にて、協働体制を構築。
    - SFCとの調整のもと、連携する自治体・組織にて総務省「**地域おこし協力隊**」（例:報償費200万円/年・活動費200万円/年、最長3年間）の制度や、**自治体・組織の独自制度・職員派遣制度等**を活用し、受け入れと協働体制を準備。
    - **地域の現場で実践的な研究活動を行うSFCの大学院生・進学希望者等**を対象に**自治体・組織の選考**により任用。※大学院合否と協力隊等の任用は連動しません。
      - 地域おこし協力隊の制度を利用する場合、自治体が設定する条件（例：当該地域への在住、1年以上3年以内の活動従事など）のもとで、自治体が任用。
      - 修士課程(2年間)修了後などにも、地域おこし協力隊等の任期(例：3年間)が残っている場合、継続することが可能。※自治体の制度によります
      - 自治体の判断と制度のもと、地域おこし協力隊の**起業支援制度**（年100万円・3年目や任期終了翌年に利用可能）等を提供する地域もあります。
- ※ 制度の設計・運用は、より効果的な活動が出来るよう、慶應SFCの担当教員と自治体・組織との調整を行います。

- 慶應SFCは、大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースにて指導・支援体制を構築します。
  - 「地域おこし研究員」は、社会イノベータコース指定の科目にて、**対面・遠隔・集中等の研究指導・支援**を受けながら、現場での実践的な研究活動を行います。
  - 条件を満たした場合、修士号に加えて**サティフィケート(コース修了証)「社会イノベータ」**を授与します。
  
- 地域おこし研究員は、その活動費を用いて、**慶應SFCや都心サテライト等での研究ミーティングや授業等に定期的に参加**するものとします。
  - 全国各地で活動する地域おこし研究員が、SFCや連携地点などに月1回程度集合し、研究ミーティングを開催します。（参考：[SFC未来創造塾](#)）
  - 大学の四学期制度を用いて、**1年春学期前半にSFCでの集中学習**や、指定授業の遠隔受講、**インターネットを介した遠隔ミーティング**（大学院プロジェクトへの参加）、個別の助言・指導などを通じて、**各自のプロジェクトを構築・推進**します。
  - Web会議システム等を用いて、グループワークでの授業課題などにも取り組むことができます。
  
- 自治体等では、**遠隔ミーティングや実践活動の拠点となる協働スペース**を整備します（地域の特性やテーマによって異なります）。

# (参考) 「地域おこし研究員」を任用・任命する連携自治体・組織



---

「地域おこし研究員」は大学院入学後でも活動可能です。

詳細は

[si-researcher@sfc.keio.ac.jp](mailto:si-researcher@sfc.keio.ac.jp)

にお問い合わせ下さい。

(参考)

地域おこし研究員 Webサイト

<https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>